

第 25 回高専情報処理教育研究発表会（イベント番号 070 号）
遠隔講演実験【JGN イベント利用実施報告】

1 目的

本イベントでは、高専における情報処理教育、情報システム構築などについての研究発表を行い、相互の情報交換と情報処理教育の向上を目指す。

2 日時

本実験に関する箇所については、太字（アンダーライン）で示す。

8月22日（月） 回線の試験期間

8月23日（火） 回線の本番利用期間

8：30～9：00 出席者受付（4F大会議室）

9：00～9：20 開会式（4F大会議室）

9：30～15：00 回線の調整，テスト

9：30～12：38 研究発表会（1Fテルサホール，3分室）

12：38～13：30 昼食，休憩

13：30～15：08 研究発表会（1Fテルサホール，3分室）

15：20～17：40 特別講演会

「マイクロプロセッサの構成方式の現状と将来」

富田眞治先生（京都大学大学院情報学研究所 教授）

「地域活性化と新たなValueの創出～超高速テストベッドネットワークJGNIIの利活用」

相原玲二先生（広島大学情報メディア教育研究センター 教授

17：30～18：00 閉会式

18：00～20：00 懇親会

3 場所

松江テルサ（松江勤労福祉者総合福祉センター）4F大会議室

〒690-0003 松江市朝日町 478-18（JR松江駅前）TEL0852-31-5550

4 テーマ

『地域活性化と新たな Value の創出～超高速テストベッドネットワーク JGNII の利活用』

メッセージ・ポイント

超高速ネットワークによる高精細映像伝送技術の実感とPR，利用システムの紹介

超高速ネットワークの利用方法，手続きについての概略

超高速ネットワークによる活用事例の紹介

5 対象

全国高専における情報教育に関係する教職員，一部民間企業人

6 定員・参加費

120名、特別講演会自体は無料（研究発表会は参加費2000円/人）

7 主催等

高等専門学校連合会，高等専門学校情報処理教育研究委員会

8 協賛

情報処理学会，電子情報通信学会，電気学会

10 遠隔講演実験の実施状況等

(1) 主会場（松江テルサ（松江勤労福祉者総合福祉センター）4F 大会議室

【参加者数】100名

【所見等】

1. 会場が狭く，一般市民，県内企業等への PR をあえて控えた．もう少し広い会場で，より多くの方に体験して頂く形の方がよかった
2. 会場に設置してあった音響ワゴンの利用方法が限定されており，質疑応答についてマイクを2本必要とした．
3. 特別講演でとっていた時間に余裕がなく，しかも前の講演が延びてしまったため，肝心の JGN2 の PR の時間を減らさざるをえない状況になってしまった
4. ネットワーク経由によるハイビジョン相当の高精細な画像伝送を初めて体験された方も多く，「非常にインパクトがあった」，という感想が多かった
5. マスコミへの PR を行ったが，PR のポイントがやはずれてしまったと考えられる（高専の教員に限ったイベントというイメージを与えてしまったかもしれない）．
6. スタッフの数などで言えば，参加者にやや大掛かりなシステム，という印象を与えたようである．Polycom のようにスイッチ・ポン！で簡単に実現できる環境についても紹介した方がよかったかも知れない．
7. ハイビジョン品質の伝送システムでの遅延について，参加者に具体的な実例を通して理解して頂けた．
8. 松江高専で準備したプロジェクトの品質が広島市大さんの用意したものに比べて明らかに劣っていた．このため，2つのスクリーンで並んだ画面がアンバランスになった．色や解像度についても，ハイビジョン品質になるとプロジェクトの品質がはっきりと出てしまうということがよく理解できた．

(2) 【ネットワーク構成等の概要】

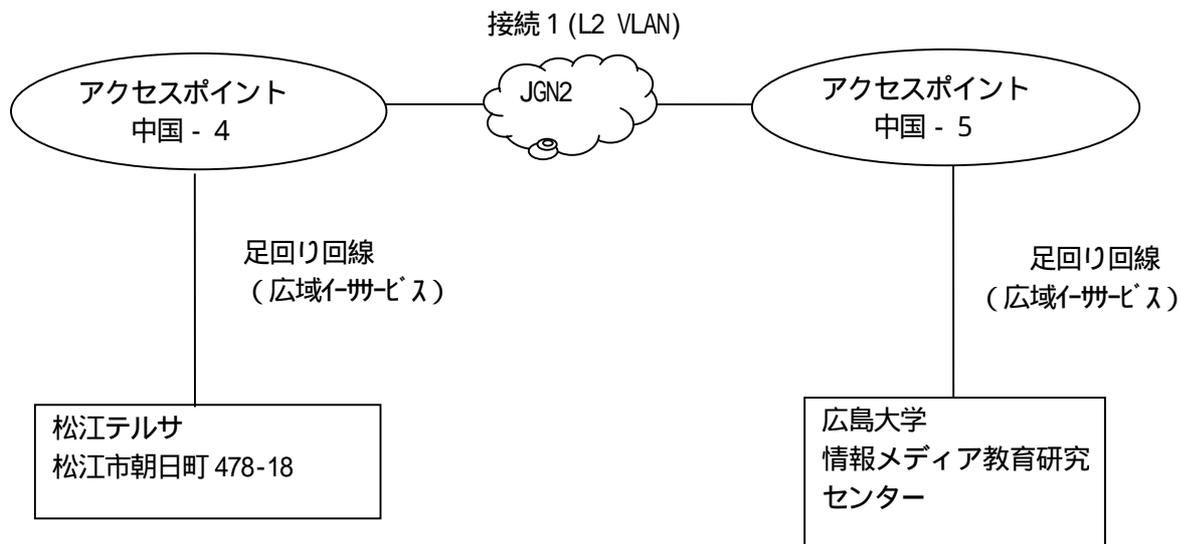


図1．遠隔講演実験ネットワーク構成

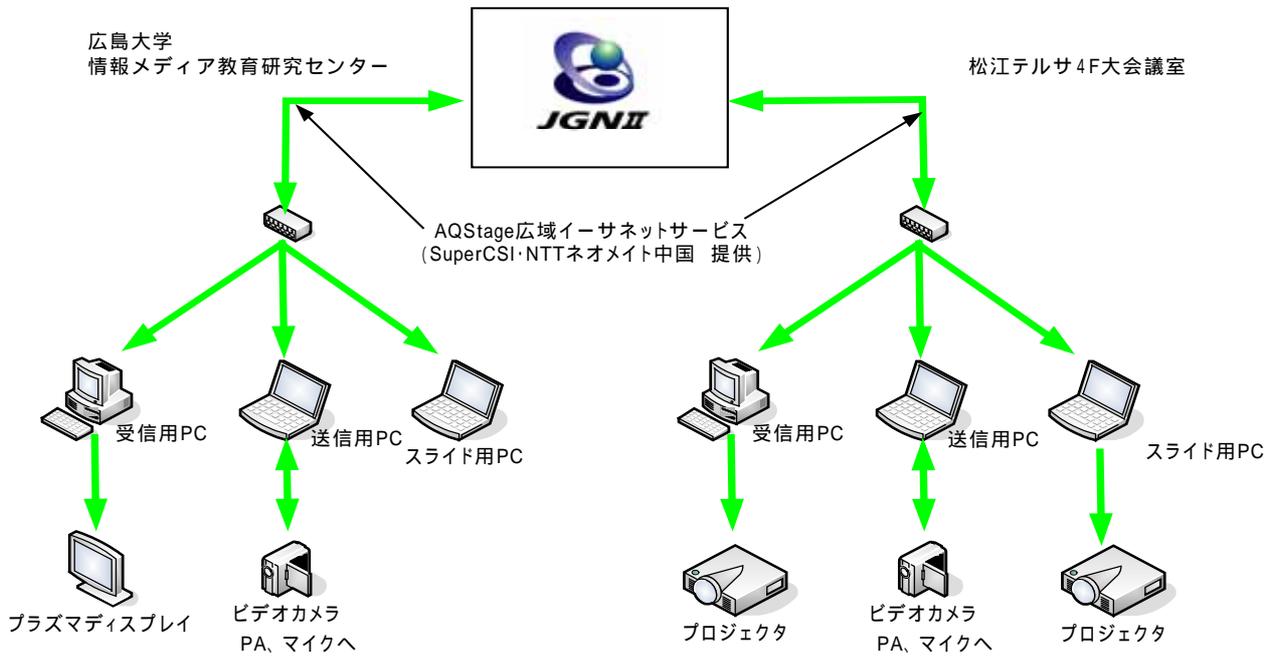


図2 . 遠隔講演実験機器構成